

地域政策としての 獣害対策の進め方



兵庫県立大学
山端 直人

自己紹介

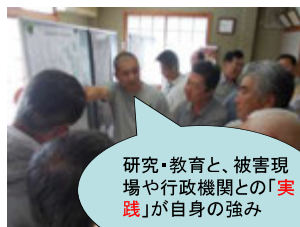
農林水産省⇒三重県庁⇒現職

山端 直人 兵庫県大
／兵庫県森林動物研究センター

専門:「農村計画」「アクションリサーチ」
「野生動物の被害管理」

～社会調査、集落づくり、被害防除、
捕獲、政策提案まで～

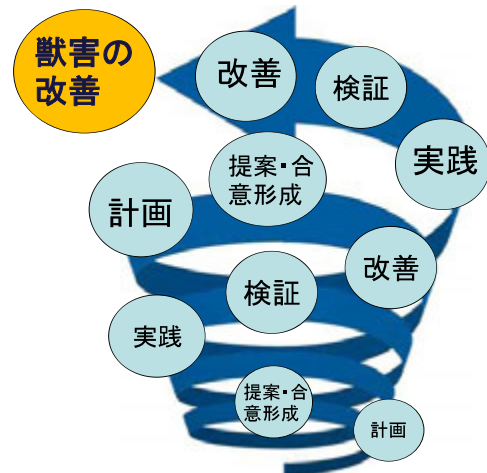
集落や地域で獣害の改善方法を「提案」し「課題解決」を図る実践
～年間で20集落、累計約300の集落で実践～



研究・教育と、被害現場や行政機関との「実践」が自身の強み

集落の合意形成理論(ご要望あれば要請ください)

アクションリサーチ 長期に「共同で」「改善」していく「実践」



先ずお伝えしたいこと



柵からは(シカは)は入れない。効果はある。

正しい対策(政策です)で、必ず成果は出る
→住民等の評価も得られる



テレビ朝日 報道ステーションより

数年前のサル群や集落の様子。現在、この問題は
ほぼ解決しています。

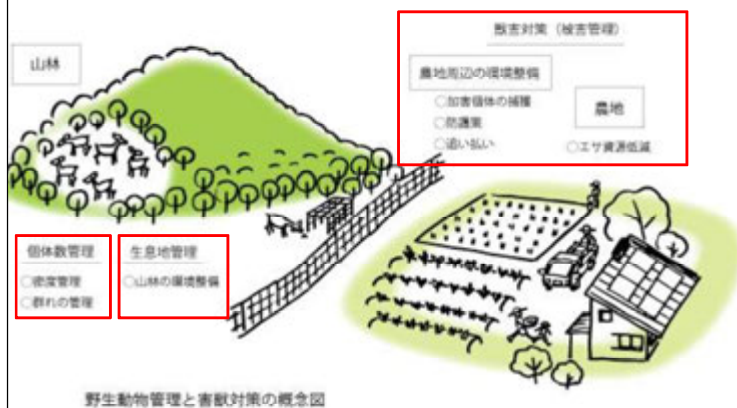
■だから「役所が」「誰か」なんとかしろ？

■住民の役割は？ 行政の役割は？

■ここには、種々の地域社会の問題に共通する課題が見えます

→獣害(に限らず)を真剣に考えると、種々の地域社会の問題解決に**つながる**(はず)

野生動物管理(ワイルドライフマネジメント)の概念図



① 人が被害と思わない「エサ」がある



② 「正しく」囲えていない



③ 隠れ場がある



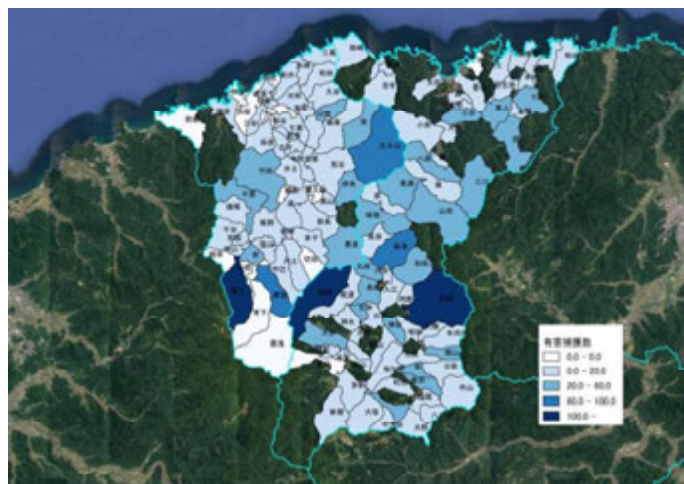
④ 正しく追い払えていない (サル) (効果が少ない追い払い)



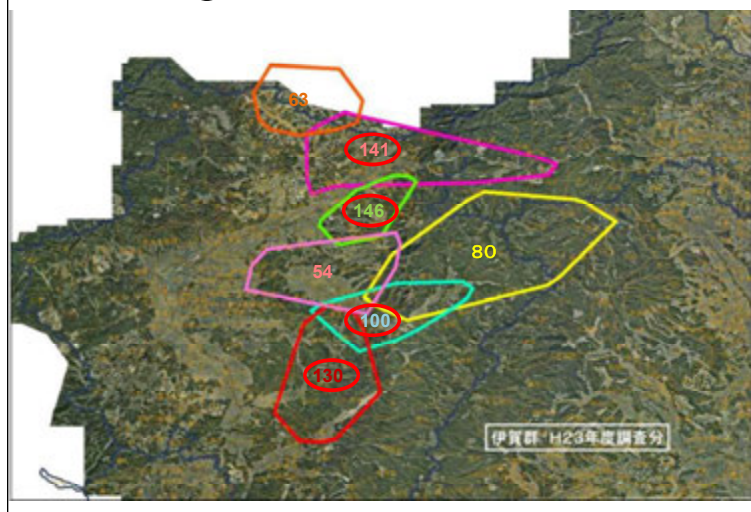
⑤正しく捕獲できてない



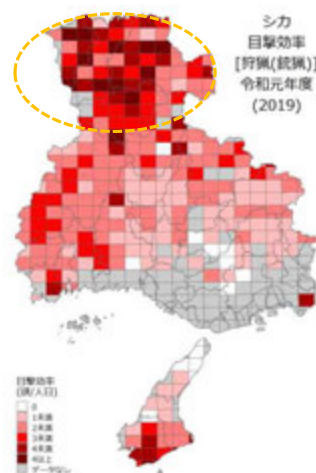
集落間でこんなに捕獲数(有害)が違う！



⑤群れも頭数也多すぎる



⑤生息数也多すぎる(シカ)



シカ(イノシシ)対策の5箇条

- 1 予防 集落内の収穫残さや不要果樹など「エサ場」をなくす
- 2 耕作放棄地や藪などの隠れ場所をなくす
- 3 治療 囲える畑はネットや柵のできる限り囲う



集落のエサ場価値を下げる

- 4 手術 加害している個体を適切に捕獲する
- 5 適正な密度管理を進める

サル対策の5箇条

- 1 予防 集落内の収穫残さや不要果樹など「エサ場」をなくす
- 2 耕作放棄地や藪などの隠れ場所をなくす
- 3 治療 囲える畑はネットや柵のできる限り囲う
- 4 人里は怖いと覚えさせるため、獣を見たら必ず追い払う



集落のエサ場価値を下げる

- 5 手術 群れ単位に頭数をコントロールする

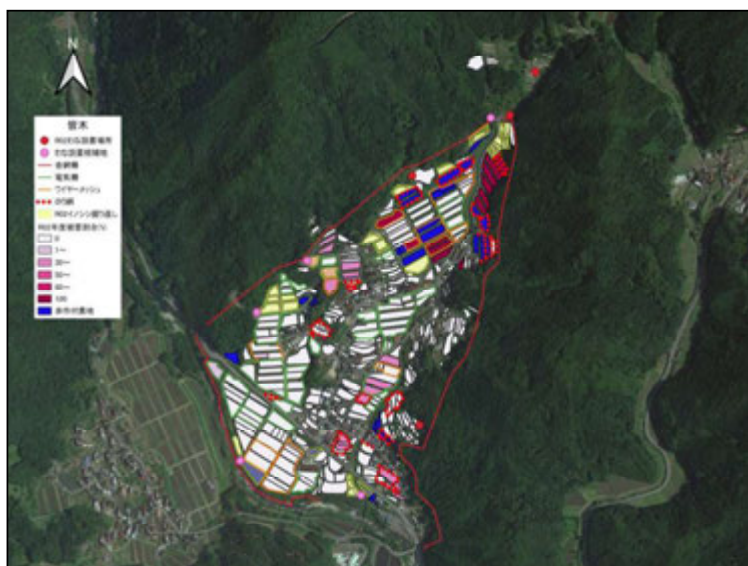
ここで紹介するのは

～各地での社会実験～

イノシシ・シカ対策

穴栗市皆木集落

箱ワナ、くくりワナも用いた
集落主体の捕獲モデル



護って・・・



柵の補修や補強も努力している

巡回研修時には柵の管理研修も実施





獲る・・・

市、県、調査員等でくりワナの管理技術研修



「地域が主体的に」獲る・・・

集落でカメラも確認しながら捕獲技術を向上



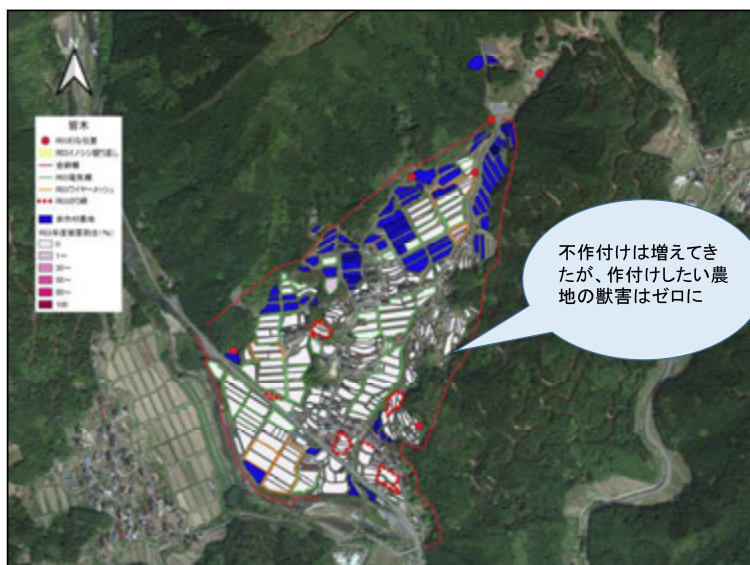
獲る・・・

集落で分担して檻・ワナの管理→捕獲成果向上



それを集落で共有する

LINEグループで集落が連携しつつ獣害対策



不作付けは増えてきたが、作付けしたい農地の獣害はゼロに



以前は全滅で収穫できた人がいなかった。今は田んぼの被害、掘り返し**なくなっている**

護るの課題

先ずは集落柵



2022/9/2
獣害に強い集落づくり



護る・・・の課題

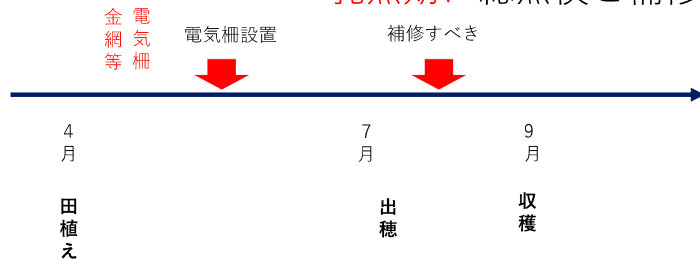
入られても、
それを長続きさせない！



入られる前に早めに補修した。今年は被害ない。研修会の影響。

点検と補修のポイント

早めに補修する
＝乳熟期に総点検と補修



補修技術

対策：柵の補強



本プロジェクトで裾部分の改良

フェンスやW・M柵の外周下部に電気線を1段設置(心理柵＋物理柵)



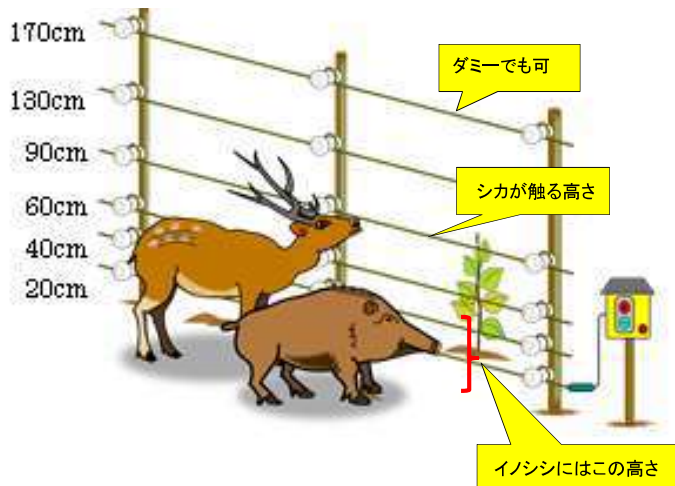
末松電子「メッシュ碍子」

新たな技術も用いて防護柵の補強



個々には電気柵
(最後の防衛)

③電気柵で囲う（シカ+イノシシ）



探査させることで感電させる

兵庫県森林動物研究センター研修資料より

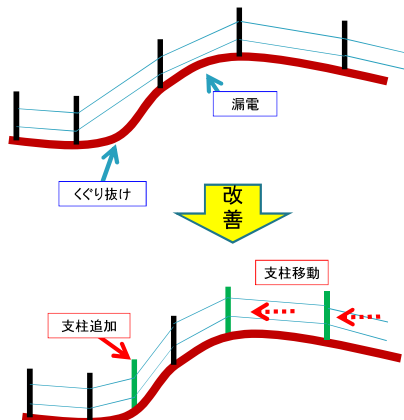
こういう電気柵がいっぱいあるはず！



だから、こういう簡易な
チェック棒などを使うと
ミスが少なくなります



凸凹な地面では支柱配置に注意



管理の基本は電圧チェック 5000V以上

電気柵の草刈と、電圧チェックは
セットの仕事とすること。

